

2015 年 3 月期第 3 四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2015 年 2 月 2 日（月） 10：00～10：50

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

Q. 電子産業向け装置でキャンセルがあったとのことだが、その規模や費用発生の有無について教えてほしい。

A. 第 3 四半期に国内ハード案件で 20 億円弱の受注取り消しが 1 件あった。2 年ほど前に受注した案件で一部設計を進めていたが、進行した分は支払いを受けた後、残りがキャンセルとなったので、これに伴う損失は発生しない。

Q. 電子産業向け装置の営業利益が 10～12 月期に前年同期比で減少した理由について教えてほしい。

A. 海外において数億円の損失規模となる不採算案件が発生したため。

Q. 海外で発生した不採算案件は、今上期に受注計上した台湾の案件か。

A. 台湾の案件ではない。東南アジアにおける半導体向けのハード案件である。

Q. 今後新たな不採算案件が発生する見込みはあるか。

A. 今のところはない。

Q. 買収した事業の営業利益率について、前回の電話会議では二桁超の水準であるという示唆があったが、今回の 2014 年度見通しでは、統合費用を勘案しても 7%となっている。これは直近業績が悪化したためか。また 2015 年度についても、売り上げの寄与はあってものれん償却後はマイナスの利益寄与になると考えていいか。

A. 営業利益率はもともと一桁の後半という認識であったので、直近とくに大きく下がったわけではない。ただ買収直後の 2015 年度は統合費用等を見込むため、のれん・知的財産権償却後ではマイナスの利益寄与になる。2 年目の 2016 年度はのれん・知的財産権償却後で収支トントンくらいになり、3 年目の 2017 年度にはのれん・知的財産権償却後でもプラスの利益寄与になると考えている。

Q. 買収した事業について、欧州依存度が高いにもかかわらず、今後 3 年間の売り上げが現地通貨ベースで年率二桁の高い伸び率になっている根拠と、その達成確度について教えてほしい。

A. 少し高めの伸びを見込んでいる理由のひとつは、もともとドイツを中心に受注確度の高いプロジェクトを見込んでいるためである。もうひとつの理由は、シナジー効果を期待しているためである。具体的には、当社のボイラ薬品、冷却水薬品、逆浸透膜処理薬品など競争力のある商品を欧州のプラットフォームを使って販売していく。また買収事業の紙プロセス薬品は競争力があるので日本やアジアの市場で当社が売っていく。特に技術的な面で補完関係や学び合える部分があると期待しており、技術面の交流を通じて新たな商品・サービスを作っていけば、達成できると考えている。

- Q. 買収のシナジー効果は、前回の電話会議では3年後の売上高で15億円との説明だったが、その後変化があるか。
- A. 見込んでいる具体的な数字は今のところ変えていないが、シナジーを発揮することでこれを拡大させていきたい。
- Q. 2015年3月期の海外売上高の見通しが389億円とのことだが、為替の影響はどれくらいあるのか。
- A. 第3四半期累計の受注高・売上高で、10億円程度の円安による上乘せがあった。
- Q. 薬品事業の国内売上高と海外売上高について、伸び率の実績と計画について教えてほしい。
- A. 第3四半期累計で、国内売上高が前年同期比+0.3%、海外売上高が同+10.3%の伸びだった。通期計画では国内売上高を前期比-1.0%、海外売上高を同+8.1%と見込んでいる。
- Q. 薬品の国内事業は消費税増税以降の厳しい状況が2015年3月期いっぱい続くか。
- A. 2014年3月期に消費税増税前の駆け込み需要があったため、2~3月も前年同期比では厳しい状況が続くと見ている。
- Q. 電子産業向けハード受注の半導体、液晶、その他の比率は。
- A. 第3四半期の受注累計で、半導体50%、液晶10%、その他40%の実績だった。
- Q. 買収事業の損益計算書や貸借対照表はいつから連結化されるか。
- A. 損益計算書は2016年3月期から、貸借対照表は2015年3月期第4四半期から、それぞれ連結される。
- Q. 2016年3月期にかけてのキャッシュポジションはどのように推移するか。
- A. 買収資金320億円を手元資金から支払っているが、それでもキャッシュが700億円程度残る見込みであったため、自己株式取得実施を決めた。2016年3月期の設備投資は2015年3月期よりも増加する見込みだが、自己株式取得後でも投資資金は十分確保できている。
- Q. 薬品事業の2016年3月期の国内での事業環境と伸び率の見通しについて教えてほしい。
- A. 事業環境が大きく好転するとは考えていない。よって、これまで以上に顧客にとって高い価値を提供できる新商品の開発に注力して売り上げを伸ばしていく。2016年3月期の薬品事業の国内売上高は前年並みか少しプラスくらいのところを狙っていく。
- Q. 超純水供給事業の2016年3月期の事業規模のイメージを教えてほしい。
- A. 2015年3月期で終了する契約や2016年3月期の途中で終了する契約がある一方で、新たに獲得した契約があるため、プラスマイナスして2015年3月期並みとなる見込み。
- Q. SKハイニックス向けの超純水供給事業はいつから、いくらぐらい業績貢献するか。
- A. 2016年3月期下期から6億円くらいの売上貢献になる。
- Q. 原油価格が下がるなか原材料価格が低下して薬品事業の-marginが改善する可能性があるか。

A. 原油安の一方で、円安により輸入原材料価格が上昇している面もあるため、判断が難しい。

Q. IFRS 導入の可能性があるか。

A. 検討中だが、すぐに導入する可能性は低い。導入するとしても、2～3 年後になる。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。